

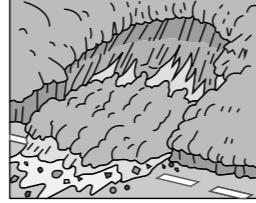


土砂災害から身を守る

土砂災害は、台風等の大雨や集中豪雨、地震が引き金となることが多く、突発的に大きな破壊力を持って発生します。傾斜が急な山が多い日本は、土砂災害が発生しやすい環境にあります。突発的に発生する土砂災害は、正確に予測することが難しい災害です。非常時に備えて、日ごろから準備をすることが大切です。

土砂災害の種類と前兆現象

<h3>がけ崩れ</h3> <p>斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる現象です。崩れ落ちるまでの時間が短く、人家の近くでは逃げ遅れも発生し、人命を奪うことがあります。</p> 	<h3>土石流</h3> <p>山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨等によって一気に下流へと押し流される現象です。時速20~40キロという速度で一瞬のうちに人家や畑等を壊滅させてしまいます。</p> 	<h3>地すべり</h3> <p>斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象です。土塊の移動量が大きいと、甚大な被害が発生することがあります。</p> 
<p>こんな前兆現象に注意!</p> <ul style="list-style-type: none"> ●斜面がひび割れる。 ●小石がばらばら落ちる。 ●木が傾いたり倒れる。 ●木の根が切れる音がする。 ●わき水が止まる。あるいは噴き出る。 	<p>こんな前兆現象に注意!</p> <ul style="list-style-type: none"> ●雨が降り続けているのに、川の水が減る。 ●川が急ににごったり、流木が混ざり始める。 ●木の裂ける音がする。 ●異常なおいがする。 	<p>こんな前兆現象に注意!</p> <ul style="list-style-type: none"> ●流水や池等がにごる。 ●木の騒ぐ音、裂ける音がする。 ●ひび割れ、段差ができる。 ●水が噴き出す。 ●道路等にひび割れ、電柱が傾く。

2つの警戒区域を知っておきましょう

「土砂災害警戒区域」「土砂災害特別警戒区域」とは、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づいて山形県が指定・告示した区域のことです。町では区域が指定された地域において、土砂災害ハザードマップを作成しておりますので土砂災害のおそれのある区域をご確認ください。

土砂災害警戒区域 (通称: イエローゾーン)

土砂災害が発生した場合に、住民の生命または身体に危害が生じるおそれがある区域として指定されます。

この区域では、土砂災害から生命を守るため、災害情報の伝達や避難が早くできるように地域防災計画に定められ、警戒避難体制の整備が図られます。

土砂災害特別警戒区域 (通称: レッドゾーン)

土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域として指定されます。この区域では、開発行為の制限、建築物の構造規制や移転勧告等が行われます。

自宅の状況を確認しよう

- ①自宅が土砂災害のおそれがあるか確認する
土砂災害ハザードマップや町ホームページを活用して土砂災害警戒区域・特別警戒区域を確認しましょう。↓ 土砂災害警戒区域等に該当する場合
- ②避難行動の考え方や風水害時避難場所を確認する
- ③気象情報等に注意し、早めに避難する



▼問い合わせ／舟形町住民税務課危機管理室 ☎(32) 2111 (内線 315)

…あなたはその時

再確認! 【風水害対策編】

▽以前、全戸配布した「防災ガイドブック」をご覧ください。

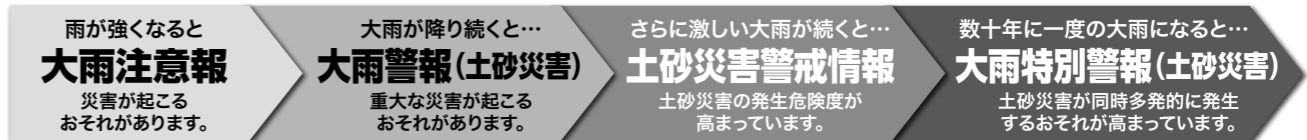


避難情報の種類

災害が発生するおそれのある場合、防災無線などを通じ、避難を呼びかけます。速やかな避難行動を行うため、日ごろから最寄りの避難施設を確認することが大切です。雨が降り出したら、気象情報をチェックし、早めに避難に備えましょう。

また、雨の状況に応じて段階的に注意報や警報などが発表されます。土砂災害発生危険度が高まっている地域では、土砂災害危険箇所・土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所へ早めに避難することが重要です。

避難情報の種類	内容
避難準備・高齢者等避難開始	高齢者や子どもなど、避難行動に時間が必要な人が安全に避難するため、早めの避難を促す情報です。
避難勧告	災害が発生するおそれがあり、住民の避難が必要な時に発表する情報です。
避難指示	危険が迫っている時に発表する、避難勧告より強い避難命令です。



避難するときに注意すること

避難の指示が出たら、速やかに避難をします。「大丈夫だろう」と個人で判断するのはたいへん危険です。早めの対応で命を守りましょう。がけ崩れや地滑り・土石流等の二次災害に警戒し、足元に注意して避難しましょう。また、ご近所を気遣うゆとりが大切です。

●避難までの流れ

1. 最新情報を入手する
テレビ・ラジオで気象情報を確認し、最新の災害情報の入手に努めましょう。
2. 避難の呼びかけに注意する
役場や警察署、消防署からの避難の呼びかけに注意しましょう。
3. 避難勧告・指示に従う
避難の際は、役場・警察署・消防署・自主防災組織責任者等の指示に従って行動しましょう。
4. 避難前の確認
避難前には必ずガスや電気、火種を消したかを確認しましょう。
5. 安全な避難
避難路には高い場所にある道路を選び、浸水箇所では溝や水路に注意しましょう。
6. 避難に遅れたら
万一避難に遅れ、危険が迫ったときは、近くの丈夫な建物の高層階に逃げましょう。